



はとの子だより

No.8 令和4年10月26日(水)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

一人一人が欠かせないピースに ～児童総会・わくわく班活動～

今年度の児童会の合い言葉は、「ジグソーパズル」です。

「全校児童一人一人が、一つも欠かせないピースとなり、互いに関わり合いながら、全員が活躍できる学校をつくっていく」という願いのもと企画委員会が中心となって設定しました。



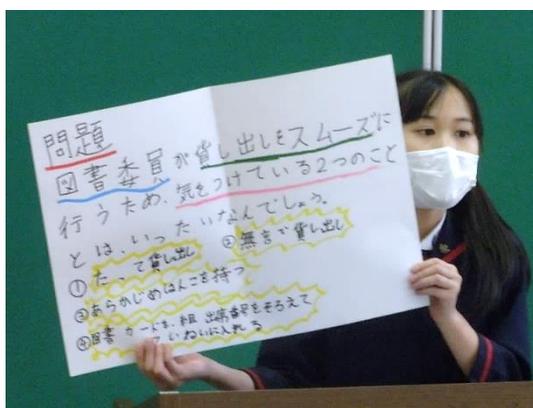
10月は、3・4年生の代表委員が改選となったこともあり、学校生活のさらなる向上につながるよう、気持ちを新たにして各委員会の取組を再確認し、周知していく必要があります。そのための児童総会を実施しました。

感染症拡大防止の観点から、今年度もオンラインではありませんでしたが、はとの子ホールと各教室をつなぎ、ほどこよい緊張感の中で実施することができました。

3・4年生の後期代表委員は、企画委員の呼名に力強く返事をし、真剣な面持ちで起立していました。学級の仲間からの温かい拍手が大いに励みになったことでしょう。

各委員会の6年生は、1年生から5年生まで、幅広い年齢層に伝わる言葉を選びながら、取組を紹介していました。クイズ形式で日常の取組を伝えることにより、遠回しに委員以外の子どもたちに心がけてほしいことを伝えるなど、さすが6年生と思わせる工夫を施していました。ゆっくりと、静かだけれどもよく通る声で話す落ち着いた姿に、この半年で最高学年としてのたまたまいを身に付けてきたことが実感されました。

予め配付された資料を手に、食い入るような視線を画面に送る低学年の子どもたちがたくさんいました。この児童総会に臨む高学年の意気込みが伝わったことの証しだと思いました。各委員会の活動紹介が終わった後、「あ～！緊張した～」と相手を崩した6年生の姿からも、この総会をどれほど大切に考えていたかがうかがえました。



わくわく班活動では、4月に実施予定だった「手をつなごう仲間集会」の代替となる活動と、「花いっぱい片付けよう活動」を立て続けに実施しました。

最初の顔合わせの会では、2年生以上のお兄さんお姉さんに向き合って座った1年生の表情が、はじめはとても硬かったのですが、時間が経つにつれ、だんだんと柔らかくなっていきました。

親睦を深めるためのゲーム活動では、低学年の子どもたちをどうやって勝たせようかと手心を加えたサービス精神たっぷりの高学年の子どもがいたことに驚きました。

ある5年生は、1年生用に準備したプレゼントが余ったことから始まったじゃんけんによる争奪戦で、わざと自分たちがじゃんけんに負けるように打ち合わせをしたそうです。

「花いっぱい片付けよう活動」では、この夏私たちの目を楽しませてくれたペゴニアの鉢植えを片付ける作業に汗を流しました。

重い鉢植えをみんなで運び、冷たい水できれいになるまで洗う作業の間中、学年を超えて楽しそうに言葉を交わす子どもたちの姿を見て、この日の空のような晴れ晴れとした気分になりました。

これら諸活動を通して、誰もが互いを必要とし、欠かさないピースであることへの自覚を高めることができるよう願わずにはいられませんでした。



自分たちの将来とお金の問題を考える ～3年親子活動～



各学年の親子活動が順調に実施されていますが、今月は、3年部が「金融教育」に関する学習会を実施しました。

講師として、日本銀行秋田支店金融広報委員会から金融広報アドバイザーの伊藤晴美先生にお越しいただきました。

子どもたちは、これまでに自分たちの成長に必要な金額を伊藤先生から聞いて驚いていました。また、これからかかることが予想される金額、それをお家の方々がどのようにして捻出していくのかという見通しなどに関心をもつことができました。

お金の使い方や価値観は人それぞれです。自分の価値観に基づいてお金を貯め、願いや目標をかなえるためにそのお金を使うことが、自分らしい生き方だと、伊藤先生は教えてくれました。オンラインで参加していただいた保護者の方々と一緒に、今後も未来の自分たちを真剣に考える機会をもっていただけたら幸いです。

平和の尊さを学ぶ ～外池智校長先生による想像と想像の学びパートⅡ～

6年生は、はばたき学習の時間に「平和」について考える学習を展開しています。先日は、外池智校長先生から、「平和」をテーマにした授業をしていただきました。

授業は、戦闘機パイロットらしき男性のモノクローム写真の提示から始まりました。被写体の男性は、当時16、7歳の校長先生のお父様だとのこと。（後日配付されるPTA会報「こむらさき」に掲載予定です）幸いにして、戦地へ赴く前に終戦を迎えたそうです。

このお父様の話から始まり、第二次世界大戦終戦前夜の土崎地区への空襲の話へと発展し、最後にまたお父様の話題に戻って授業は終わりを迎えました。校長先生は授業の結びで次のようにおっしゃいました。

「土崎の空襲は、たくさんの人たちの心に深い傷を残しています。父が、もし戦地へ赴くことがあれば、誰かが暮らしているところに爆弾を落とす側になり、たくさんの人々の心を傷付けていたかもしれない。そう思うと、とても複雑な気持ちになります。」

6年生の子どもたちが、身を乗り出すようにして校長先生のお話の耳を傾けていた姿が印象的でした。

